

## 留学先からの報告

2019/6/14 Scripps Research

荻田譲

もう1ヶ月で来年度の一年生がやってきてしまう。5年生になりたくありません。さて、生活にも研究にも特にこれといった変化のない毎日を過ごしています。

今年の頭からポスドクがプロジェクトに加わってくれました。このテーマも終盤戦で、ひたすらマンパワーと時間がかかる段階にあるので人手が増えることは非常に助かります。そのおかげもあってか研究で大きな山場を超えました。まだ解決しなくてはいけない問題があるので手放しでは喜べませんが、なしかありかであればあります。卒業やポスドクアプリケーションの時期に関わってくるのでさっさと終わらせたいところですが、具体的な終了時期の明言は避けます。全合成において“もう少しで終わる”“これが最後のスケールアップ”は呪われた禁句です。WoodwardとCoreyが空から見てて、これらのフレーズを口にするたびにプロジェクトの終了を遅らせているような気がします。

少しいいことはBMS Chemistry Awardをいただき、プリンストンのBMSサイトに行って研究発表をしてきました。みなさんから王子様のように扱ってもらえ自尊心が少し回復しました。先ほど出てきたノーベル賞受賞者でもあるE. J. Coreyも会場にいました。もう91歳になりますが杖なし一人でチャカチャカ歩き回っては鋭い質問を飛ばすなど、まだまだお元気そうでした。アカデミアに進むにあたってのアドバイスもいただき、日本の講座制、研究領域の遷移などについて話しました。自身のプレゼンも事故らずに終えることができ、ボスも満足してくれました。自分のしている研究の全体像を学外で発表するのは初めてのことで聴衆の受けもよかったです。会社で働く方々からは味の違った質問が飛び、自分の研究テーマを違った視点から見直す有意義な機会となりました。シンポジウム後は会社のツアーに連れて行っていただきました。実は製薬企業を見学するのは初めてで、予算を潤沢に使って高度に効率化された研究設備は見るだけでも楽しめました。BMSで働く方々の生の声も聞け、製薬業界の最先端を垣間見たのは非常にいい経験です。

3月から6月にかけてボスの教えるHeterocyclesのTAをしました。2年前の報告書にこの授業がハードだというようなことを書いた気がしますが、TAをするのもハードでした。おかげでいい勉強になったので結果的には満足です。Scrippsは大学院だけなのでクラスも受講生自体は25人ほど、これにポスドクと近隣の製薬会社の人たちなどが聴講に来て合計50人程度の(Scrippsにおいては最大の)クラスでした。いわゆる大学の大学院で1000人規模の学部生の授業のTAをしているみなさんには頭がさがる思いです。

さて、そろそろ次の身の振り方も考えなくてははいけません。前回の報告書で愚痴をこぼしたのですが、いまだに迷っています。上に書いたように、このままダラダラいくと順当にポスドクをすることになるとは思いますが、ポスドク先も決めかねています。興味のある分野はあるのですがそもそもマイナーな領域である上にあまり流行らず、特に最

近は予算の締め付けがさらに強まり、該当する研究室が数えるほどしかありません。ボスは私にアメリカにとどまって欲しいと言うのですが、ドイツや日本の方がこの分野を研究している研究室がたくさんあります。むしろ分野を大胆に変えることも考えおり、最近では建築、彫刻、プロダクトデザインが好きです。キャリアの後半でこれらの分野に大きく鞍替えされた方がいらっしゃれば是非お話を聞かせてください (yuzuru@scripps.edu).

次の報告書を書くまでには論文の投稿ができているといいです (呪いのフラグ).